

ワクチンの働き知って 岐阜薬大生、幼稚園で劇披露



ワクチンをテーマにした劇を園児に披露する岐阜薬科大演劇部の学生＝岐阜市加納東丸町、加納幼稚園

岐阜市大学西の岐阜薬科大が、同大教授らの監督でワクチンやウイルスをテーマにした子ども向けの劇を制作した。演劇部の学生により市内の幼稚園で披露され、園児たちを楽しませた。同大の地域貢献活動の一環。予防接種などを受ける機会が多い子どもに、ワクチンの働きなどについて知ってもらおうと初めて企画。同大感染制御学研究室の腰塚哲朗教授が、幼稚園教諭から子どもに分かりやすい表現などのアドバイス

を受けて脚本を書いた。

演劇部の学生8人が、同市水海道の岐阜東幼稚園と同市加納東丸町の加納幼稚園を訪問。ウイルスに見立てたキャラクターが悪さをし、ワクチンが子どもを守る内容で、園児たちが戦うシーンなどに見入った。

劇の後、園児は学生と交流し「なんで薬は苦いの」「どっやって作っているの」などと質問していた。保護者向けには腰塚教授の講演もあった。

腰塚教授は「子どもたち

にもワクチンについて知ってもらい、納得して受けて

もらえれば」と話していた。

(小田香緒里)